

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24653178

研究課題名(和文) 小学校における動機づけ理論に基づいた学習支援・学級支援プログラムの構築

研究課題名(英文) Promoting children's achievement motivation and learning in elementary school classrooms

研究代表者

中谷 素之(Nakaya, Motoyuki)

名古屋大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：60303575

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円、(間接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、学習動機づけを促す環境要因について、これまでわが国では十分に検討されていない教師の役割に注目し、目標理論に基づいた実証的に検討を行った。全国の小・中学校教員900名を対象にインターネットを介した調査が行われた。先行研究を踏まえ、教師の達成目標、教師の指導行動、教室の目標構造、バーンアウト、教師効力感の各尺度が作成・分析された。その結果、教室の熟達目標や関係目標は、児童・生徒に対する熟達志向的な指導やピア・ラーニングを導き、効力感にもプラスの影響をもたらしていることが示された。以上より、児童の動機づけを促進する教室環境のプログラム構築のための基礎的検討のための有益な示唆が得られた。

研究成果の概要(英文)：This study examined that the effect of teacher's achievement goals for teaching on instructional practices and teacher's self-efficacy. Nine-hundred teachers in Japanese elementary and junior high school participated in the survey via internet. As a result of the factor analysis, teacher's achievement goals had five factors; mastery, ability-approach, ability-avoidance, work avoidance goals for teaching, and relational goals. Multiple regression analysis revealed that both teacher's mastery goal and relational goal effected positively on instructional approach to mastery, and focused on peer learning. Implications for classroom practice of what teacher's goals and instructions would promote academic motivation were discussed.

研究分野：教育心理学

科研費の分科・細目：細目：心理学・教育心理学

キーワード：学習動機づけ 目標理論 教室環境 教師 児童・生徒 学習指導 ピア・ラーニング

## 1. 研究開始当初の背景

今日、児童・生徒の学力テストや学習習熟度に関する国内外の調査結果が注目され、わが国の児童・生徒の学習意欲の低下傾向は特徴的であるという指摘がみられる（例えば市川, 2004）。教育心理学の観点から考えれば、結果としての学力（学業成績）を見るだけではなく、それを成立させている学力に目を向けるべきであり、学習動機づけの問題がとりわけ重要になるといえる。

本研究では、児童・生徒の学習意欲を促すための環境要因に注目し、教師や教室環境が児童・生徒の学習への関心や態度をどのように形成しているのかについて、近年の主要な動機づけ理論である達成目標理論（中谷, 2007）に基づいて概念化し、指導行動や教室雰囲気、および教師の効力感やバーンアウトなどの結果変数に及ぼす影響を実証的に検討する。

達成目標のなかでも、最近注目を集めているものが社会的目標である（例えば中谷, 2007; Patrick et al., 2011）。学習に対する教師の目標だけでなく、社会的な目標志向性について教師がどう指導するかは、教室という社会的状況において学習動機づけを促す指導・支援を考える上で不可欠である。そこで、学習関連の目標に加え、新たに児童・生徒との信頼関係を築こうとする目標である関係目標（Butler, 2012）を概念化する

さらに、学びの形式についても、最近、単なる一斉授業や個別の学習から、学びあいや協働を重視した形式に焦点が移行しつつある（例 秋田他, 2010; 中谷・伊藤, 2013）。学びあいを心理学的に概念化したピア・ラーニングに関するこれまでの研究から、児童・生徒の学びにおいて独自の意義をもつものであり、学習指導において効果的で重要な学習形態であるといえる（Hmelo-Silver, C.,

Chinn, C., Chan, C. & O'Donnell, A., 2013）。そこで本研究では、ピア・ラーニングに関する教師の指導行動を新たに概念化し、教師の達成目標および効力感との関連を検討するものとする。

## 2. 研究の目的

本研究では、教師のもつ達成目標について、わが国の学校や教員に適した測定尺度として概念化・尺度化し、わが国の小中学校教師のもつ達成目標を測定する尺度を開発する。その上で、教師の達成目標が学習指導へのアプローチや有能感、効力感といった動機づけ変数や教室の目標構造の形成にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。それによって、児童・生徒の動機づけを促すための学習支援の構築のための重要な示唆が得られるものと考えられる。

### 仮説

1. 教師のもつ熟達目標は、児童・生徒に対する熟達志向的な指導やピア・ラーニングの指導、有能感や効力感などの動機づけ変数と積極的な関連をもつであろう。

2. 一方、教師のもつ仕事回避目標は、熟達志向の指導やピア・ラーニング指導とは負の関連をもつであろう。

3. 教師のもつ関係目標は、熟達志向の指導やピア・ラーニングに積極的な関連をもち、さらに教室の熟達的な目標構造とも正の関連をもつであろう。

## 3. 研究の方法

調査協力者 全国の現職の小学校・中学校教員 900 名であった。調査方法はインターネット調査会社のパネルを介して行われた。

調査内容 先行研究を踏まえて、以下の尺度が作成された。

1) 教師のもつ達成目標 熟達目標(5項目) 能力 接近目標(4項目) 能力 回避目標(5項目) 仕事 回避目標(4項目) および関係目標(4項目)の5つの目標志向性について概念化し、Butler(2012)を基に新たに作成した。

2) 教師の指導行動 ミッドグレイら(Midgley et. al., 2000)を参考に、熟達志向(4項目) 成績志向(5項目) およびピア・ラーニングへの指導(7項目)を新たに作成した。

3) 教師効力感 チャネ・モランとウォルフックホイ(Tschannen-Morana, & Woolfolk Hoy, 2001)に基づいて24項目からなる尺度を新たに作成した。

4) 教師のバーンアウト 高木・田中(2003)による情緒的消耗感・達成後の後退の2下位尺度、17項目。

5) 教室の達成目標構造 大谷・中谷他(2012)による熟達目標構造・遂行目標構造の2下位尺度、計10項目。

#### 4. 研究成果

各尺度について、新たに作成された3つの尺度については、因子分析および係数による尺度構成を行い、おおむね問題ないものであると認められた。

尺度間の相関係数を算出し、変数間の関係がおよそ概念的に予想されるものであったことを確認し、その上で、教師のもつ達成目標を独立変数、学習指導へのアプローチや効力感を従属変数とした重回帰分析を行った(Table 1~3 参照)。

その結果、教室の熟達目標が、児童・生徒に対する熟達志向的な指導やピアラーニングを導き、結果として自らの効力感にもプラスの影響をもたらしていることが示された。一方、仕事回避目標をもつ教師は、熟達志向

の指導をせずピア・ラーニングにも消極的であることが明らかとなった。また、教室での関係目標は、熟達志向の指導やピア・ラーニングにも積極的な影響をもつことが示され、教室における熟達目標的、あるいは関係目標的環境が児童・生徒の学習動機づけを高める上で重要であることが明らかにされた。

Table 1 教師の達成目標が指導アプローチに与える影響

	熟達アプローチ	遂行アプローチ
教師の熟達目標	.23 ***	.04
教師の能力接近目標	-.04	.10 **
教師の能力回避目標	.05	.32 ***
教師の仕事回避目標	-.12 ***	.03
教師の関係目標	.26 ***	-.02
$R^2$	.20 ***	.16 ***

Table 2 教師の達成目標がピア・ラーニングへの指導に与える影響

	ピア・ラーニングの導入	ピア・ラーニングの方向づけ
教師の熟達目標	.17 ***	.25 ***
教師の能力接近目標	-.02	.00
教師の能力回避目標	-.01	-.01
教師の仕事回避目標	-.12 **	-.04
教師の関係目標	.31 ***	.33 ***
$R^2$	.21 ***	.27 ***

Table 3 教師の達成目標がバーンアウトに与える影響

	情緒的消耗感	達成後の後退
教師の熟達目標	-.08 *	.26 ***
教師の能力接近目標	-.13 ***	.11 **
教師の能力回避目標	.11 *	-.05
教師の仕事回避目標	.36 ***	-.22 ***
教師の関係目標	-.03	.16 ***
$R^2$	.18 ***	.22 ***

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

Kazuhiro Ohtani, Ryo Okada, Takamichi Ito, & Motoyuki Nakaya 2013 A Multilevel Analysis of Classroom Goal Structures' Effects on Intrinsic Motivation and Peer Modeling: Teachers' Promoting Interaction as a Classroom Level Mediator. *Psychology*, Vol.4, No.8, 629-637.

Takamichi Ito, Motoyuki Nakaya, Ryo Okada 2013 Peer Modeling of Motivation and Children's Motivation for Learning. *Japanese Journal of Social Motivation*, 7, 52-63.

中谷素之・伊藤順子・小泉令三・遠藤利彦・鹿毛雅治 2013 動機づけと社会性のインタラクション 学校教育段階における動機づけの発達(誌上シンポジウム) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(心理発達科学), 59 巻, 27-52.

[学会発表](計 1 件)

中谷素之・梅本貴豊 2012 算数のグループ学習での相互作用に及ぼす社会的目標の効果 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集, p.546. 2012. 11.

[図書](計 2 件)

中谷素之・伊藤崇達 編著 2013 『ピア・ラーニング 学びあいの心理学』(序章・4 章・終章・全体編集) 金子書房

中谷素之 2013 『学ぶ意欲をいかに高めるか 学習への動機づけ』 速水敏彦編著 教育と学びの心理学 基礎力のある教師

になるために 名古屋大学出版会 pp.122-133.

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 中谷素之  
(Nakaya Motoyuki)

研究者番号: 60303578

(2)研究分担者  
( )

研究者番号:

(3)連携研究者  
( )

研究者番号: